

(第1報) 和服のイメージと洋服のイメージとの関連性について

武庫川女大家政 ○井尻 登喜子 南日 朋子 梅花短大 家本 修

目的; 日本の民族的伝統衣服である和服について、成人式以前の女性を対象に、和服の着用意識や洋服の嗜好を通して、和服のイメージと洋服のイメージとの関連性を明らかにするために、調査を実施した。

調査; 調査対象: 短大1年生(6学科)308名、有効解答者292名、解答率94.8%

調査期間: 1988年10月7日～10月24日

調査方法: クラス単位による集合調査法

調査内容: ①和服のイメージ 1項目      ②和服の着用意識 20項目  
 ③洋服の嗜好性 10項目      ④性格行動 15項目  
 ⑤振袖のスライドによるイメージ調査 17項目

結果; ①和服のイメージは、「振袖」など直接和服と結び付けた人が25.7%あり、「成人式」などの行事を挙げた人が23.3%あった。②和服の着用意識としては、「和服に関心がある」(76.7%)、「和服をきている人を見ると目がとまる」(93.5%)、「機会があれば和服を着たい」(89.7%)など積極的関心が高いことが伺える。③しかし、「和服を買うなら洋服を買いたい」(84.3%)という人もあり、若い女性にとって和服はあまり身近なものとはいえない面も伺える。④これら和服の着用意識と洋服の嗜好性の関係をみると、派手な着物が好きと答えた人のうち洋服の好みも派手であると答えた人が54.0%あった。しかし、振袖のスライドでみた派手なイメージの着物には好感が持てないと答えた人が多かった(93.2%)事より、イメージとスライドとの間に違いがあることがわかった。